



第 56 回卒業式祝辞

【学校長式辞】

校長 下山 敏晴

長く厳しかった冬も終わりを迎え、少しずつではありますが、季節は確実に春に向かっていくことが感じられます。

コロナ禍を乗り越え、今日こうして無事に卒業式を迎えた、第 56 期卒業生 275 名の皆さん、卒業おめでとうございます。証書授与では、3 年間の中学校生活の、そして、9 年間の義務教育のけじめを表わすかのように、堂々とした態度で卒業証書を受け取りました。今皆さんの心の中には、この 3 年間の様々な思いがこみ上げていることと思います。

思えば、皆さんの中学校生活は波乱の 3 年間でした。中学校入学後もコロナ禍は収まらず、緊急事態宣言が続く中、学校生活をはじめ、行事や部活動も制限され、延期や中止を余儀なくされました。中学校生活の 3 分の 2 はコロナに翻弄される中、さらに最後の 1 年間はプレハブの仮校舎での学校生活になりました。それでも皆さんは明るくたくましく前を向いて頑張りました。

そんな姿が、先日の送別集会に凝縮されていました。先輩への感謝が込められた発表をした 1・2 年生と、後輩たちの思いをしっかり受け止めた卒業生に、発寒中学校の生徒の底力を感じました。卒業生の皆さん、こんなにも素晴らしい後輩たちをもったことを誇りに思ってください。そして、素晴らしい後輩たちは、卒業生の頑張る後姿を見て成長したことを忘れてください。

そんな素敵なお卒業生の皆さんに、これからどう生きていくか、伝えたいメッセージはたくさんありますが、2 つだけお話をさせてください。

発寒中学校の教育で大事にしていることの 1 つに、「ダイバーシティ&インクルージョン」という言葉があります。ダイバーシティとは「多様性」、インクルージョンとは「受け入れて活かす」、要するに「みんなを認め合い、みんなが過ごしやすい学校を、みんなで作ろう」という意味です。これから生きていく新しい世界で、他人の痛みが分かる、困っている人に寄り添う、他者を受け入れる、違う文化を受け入れる、そんな生き方をしてください。世の中に目を向ければ、依然として差別が存在します。世界では戦争、貧困、災害で困っている人がたくさんいます。今は何もできないかもしれませんが、考えることを忘れてください。多様性が認められる、差別のない、誰もが安心して暮らせる世の中を、皆さんが作り上げてください。どんな状況でも前向きに、柔軟な姿勢でしなやかに生き抜いてください。

2 つ目に、これまでの人生で出会った人の誰一人が欠けても、今のあなたは存在しなかったことを忘れてください。それは、見守ってくれた親御さんであり、祖父母であり、近所の人であり、ケンカをした友人であり、励ましてくれた友だちであり、支えてくれた先生であり。その出会いが時にはあなたを幸せにし、時にはあなたを強くしたはずです。出会った多くの人に感謝の気持ちを忘れてください。

終わりにになりましたが、ご来賓の皆様、本日のご参列に心から感謝申し上げます。そして保護者の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。義務教育が終わる今こそ、その喜びは格別のことと思います。保護者の皆様や地域の方々が、いつも発寒中学校を見守り、励ましの言葉や応援の言葉をかけていただき、その度に我々は気持ちを奮い立たせて前を向くことができました。これからも発寒中学校を応援していただけると幸いです。

皆さん、いよいよお別れです。これから生きていく新しい世界では、つらいことがあるかもしれません。そんな時は、中学校の前を歩いて 3 年間の懐かしい日々を思い出して、それを励みに頑張ってください。発寒中学校は、いつまでも皆さんを見守っています。発寒中学校の卒業生であることを誇りに、これからの人生をたくましく生きることを願って式辞といたします。

発寒中学校 3 年生の皆さん、ご家族の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

教職員の皆様、今日まで生徒たちを教え、見守り、導いていただきありがとうございました。

皆さんが卒業する発寒中学校には校則に代わる 98 決まりと言う規則がありますね。世間ではようやく最近「ブラック校則を無くそう!」と言われるようになってきたのに対して、26 年も前から生徒自らが話し合っ規則を定めるというとても先進的な取り組みを実践して来た素晴らしい学校だと思います。

そして、さらにここ 2~3年の間に規則が改定されて、髪型や服装がかなり自由になってきました。自分たちの髪型や服装の善悪は自分たちで考えて決める。このことを「自主性」と言います。そして自主的行動には「責任」が伴います。でも自分で考えて自分で責任を負って行動するときには「自由」があるのです。

発寒中学の 98 決まりは全国的に見ても優れた校則だと思います。

ただ、皆さんが進学する高校では、まだまだブラック校則が残っているかもしれません。高校の校則って結構厳しいのです。そして理不尽です。発寒中学で自主性を育ててきた皆さんにとってはびっくりすることの連続かもしれません。

そんな時には 98 決まりの精神を思い出して、この素晴らしい校則を進学した先の高校にも広めてもらいたいと思います。生徒会の活動や、ホームルームでの話し合いを通じて、「私の出身校にはこんな素晴らしい校則があった、ぜひこの学校でも取り入れて欲しい!」と先生方や、仲間たちに教えてあげてほしいのです。

発寒中学を卒業して行った皆さんが、高校や進学先で、そして社会人として世の中で活躍する。そのことによって、札幌中の高校からブラック校則がなくなり、さらには北海道中、日本中の世の中全体が、皆さんの一人一人の個性が尊重される社会に変化して行ったら嬉しいです。

そんな素晴らしい日本を築き上げて行く卒業生の皆さんを祝福して私のお祝いの言葉とさせていただきます。



【送辞】



在校生代表

肌を刺すような冷たい風もいつしか和らぎ、手稲山の雪も溶けはじめました。3月、春の訪れを感じる季節となりました。

本日、晴れてこの発寒中学校を巣立つ第56期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表して心よりお祝い申し上げます。

今、先輩方と過ごした2年間を振り返ってみますと、いつも私たちに寄り添い、時には背中を押してくださる、道標になっていたのだと改めて感じることができます。

私が特に先輩方と深く接するようになったのは、生徒会に参加したことがきっかけでした。生徒会活動の中で、全校協議会ではもちろん、委員会・局会などでも、真剣に話を聞き、この発寒中学校をよりよくしようと積極的にアイデアを出し合う先輩方の姿を目の当たりにしました。そんな先輩方は、私たちのお手本のような存在でした。今までは先輩方の背中を追っただけでしたが、これからは教えていただいた経験や、発寒中学校の良き伝統を次の世代に伝え、さらに良い発寒中学校をつくっていきけるよう、努力を重ねていきたいと思います。

さて、私たちが先輩方から教わってきたことの中に、「何事にも真剣に、丁寧に取り組む」ということがあります。特に、学校行事の際には私たちにその姿を示してくださいました。今年度の学校祭では、仮校舎という前例のないたくさんの制限があった中でも、それぞれのクラスの個性を生かした素晴らしい発表を見せてくださいました。劇やダンス、楽器の演奏など、どれをとってもクオリティーが高く、その姿を見て「来年はもっと」、と考える人も少なくなかったはずで、私もその中の一人で、みなさんが練習や努力を重ね、堂々と発表を行う姿に感動したことを覚えています。

そんな先輩方が卒業してしまわれることを考えると、私たちの胸にはお世話になった先輩方への感謝と、別れに対する寂しさがいっぱいこみ上げてきます。

これから皆さんが進まれる道は決して平坦な道ではないかもしれませんが、辛く悩まれる日々を過ごすこともあるでしょう。しかし、そんな時はこの発寒中学校で過ごした日々を思い出してください。みなさんがこの場所で培った経験や思い出、過ごしてきた一日一日が、必ず皆さんの力になると私は信じています。

私たち在校生一同は、これまで先輩と過ごした日々を決して忘れません。

最後になりましたが、改めまして第56期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。今まで、本当にありがとうございました。皆さんのこれからは明るい未来となること、在校生一同、心よりお祈り申し上げます。

【答辞】

卒業生代表

ようやく雪解けも進み、春の待ち遠しさに気分が高揚する頃となりました。

この佳き日に第56回卒業証書授与式を多くの方々のご準備のもと開催していただきありがとうございます。保護者や来賓の方々に加え、4年ぶりに在校生も参加する卒業式に臨めたことを卒業生一同、心より感謝申し上げます。

3年前、マスクを着用しながら期待に胸を膨らませ発寒中学校に入学しました。学校生活や行事に制限があったり、部活動で大会がなくなったり、他の学年との交流が少なかったりと、満足にできないことも多くありました。そして3年生になってからは仮校舎での学校生活が始まり、行事や部活動でできることが限られるなど、私たちが過ごした3年間は壁に突き当たることが何度もありました。

しかしそれは私たちが変わるきっかけを与えてくれました。今年度行われた学校祭は、仮校舎で装飾が行えないということから、全クラス15分間のショートステージを発表しました。この形式は前例がなかったため各クラスで話し合いを重ね、準備を行いました。私はダンスを行いました。初心者ばかりでのスタートで完成が見えない日々が続きました。本番が間近に迫った体育館での練習も思うような手ごたえを感じられず、不安が残りました。しかし、それでも経験者を中心にお互いに教え合い、励まし合いながら、毎日放課後まで残り、練習に励んだ結果納得いくパフォーマンスをつくりあげることができました。98きまりの相手を尊重する態度や協力する姿勢が色濃く見られたものでした。本番では、学年で一体となって全力で声を上げ、楽しみ、盛り上がっている様子が見られ、今までの当たり前が当たり前でなくなっても、今、この一瞬を全力で楽しもうという前向きな姿勢が感じられました。

このように自分たちの意識を変え、行動に移してきたことが私たちの3年間をかけがえのないものにしてくれたと思います。

また、私たちは多くの方々に支えられながらこの3年間を過ごしてきました。

まず、在校生の皆さん。皆さんの支えがあったから、私たちは安心して活動することができました。先日の送別集会では、皆さんから直接感謝と応援の思いを受け取り、大きな感動とともにこれから進んでいく勇気をもらいました。私たちのために多くの準備をして祝ってください、本当にありがとうございます。そしてこれからの発寒中学校をよろしく願います。

次に、優しく時に厳しく私たちを導いてくれた先生方。つまりいた時、悩んだ時、寄り添い、心の支えとなるような言葉をかけてくださいました。愛情あるご指導をありがとうございました。

そして、中学校生活の多くの時間を共有した仲間たち。たくさん笑い合った楽しかったあの時も、今すぐ逃げ出したいぐらい辛かったあの時も、いつも側にいてくれました。中学校で出会えたこと、思い出の1ページを共に作ってくれたこと、忘れません。

最後に生まれてから今日まで15年間、ともに歩み支えてくれた家族。疲れた時、気分が落ち込んでいた時、家に帰れば温かく迎え入れてくれる安心できる居場所がありました。私たちのために本気で怒り、困った時には一緒に悩み、私たちを守ってくれたこと。15年間、愛情深く育ててくれて本当にありがとうございました。

これから進むべき道を途中で見失ったり、大きな壁に突き当たったりしても、これまでたどってきた軌跡が、支えてくれた人たちの存在が、私たちの道を明るく照らしてくれることでしょう。

私たちは、自分で決めた道をこれまで支えてくれた方々への感謝を忘れず、自分自身で切り拓き、一步一步進んでいきます。

発寒中学校で得られた素晴らしい出会いと、本日、心に響く感動的な卒業式をしてくださった皆様に心から感謝して、答辞といたします。

